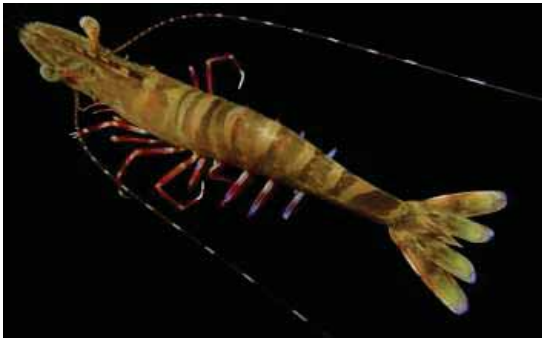


徳島県における適応策

1. 南方系魚介類の利用促進



2. 藻場造成技術の開発



3. 藻類養殖用施肥技術の開発



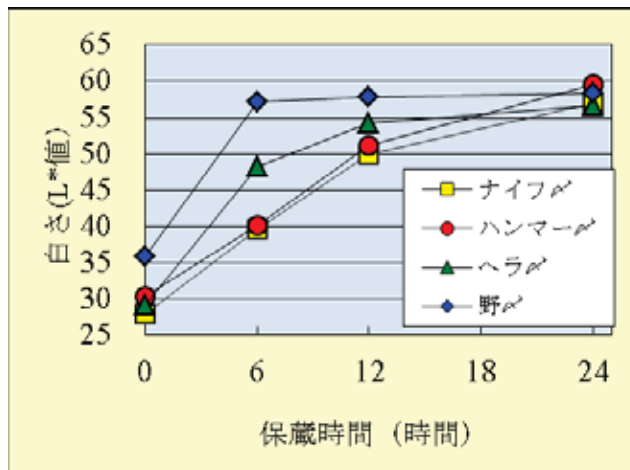
4. ワカメの種苗管理・品種開発





1. 南方系魚介類の利用促進

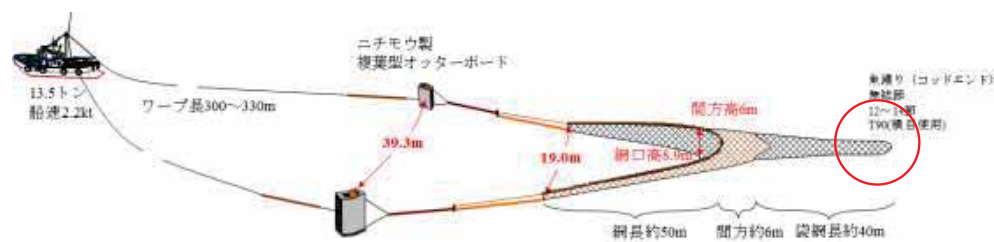
① アオリイカ



- 活けの工夫
- 温度管理
- 築地へGO

1. 南方系魚介類の利用促進

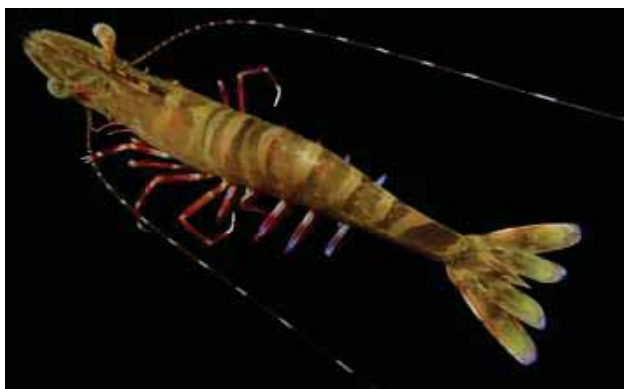
②ハモ



- T90,無結節の袋網
- 漁期前袋網交換
- 畜養温度管理
- 筒を用いて静穏

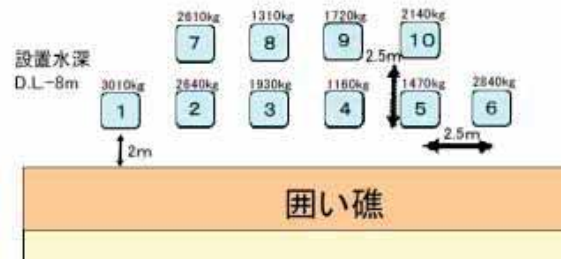
1. 南方系魚類の利用促進

③クマエビ(アシアカエビ)



- 小ロット輸送技術開発
- 種苗生産の開始
- アマモ場への種苗放流

2. 藻場造成技術の開発(単体礁)



- ウニによる食害が多い海域
- 砂地海底へ自然石を単体で設置(単体礁)



砂がウニの侵入を防ぎ
カジメの良好な藻場が成立

3. 藻類養殖用施肥技術の開発

使用した施肥剤（黄色の丸で囲んだ部分が半透膜）



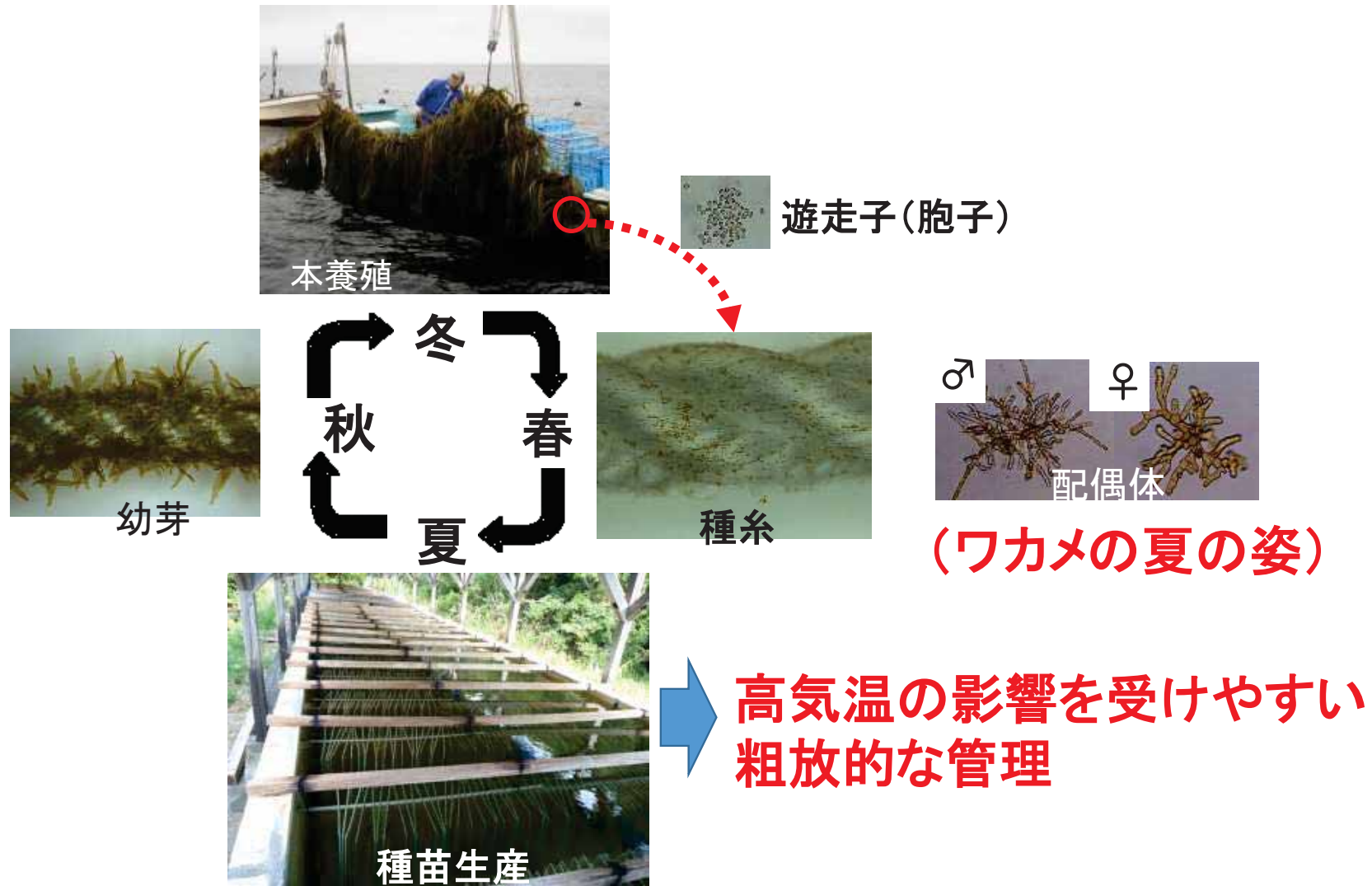
開発した**施肥剤**を
ワカメ養殖ロープに設置



設置後1週間で、**色の回復を確認**

現在、改良を重ねている

4. ワカメの種苗管理と品種開発(課題)



4-1. ワカメの新たな**種苗管理**



- **フリー配偶体**を用いた種苗生産

(配偶体を恒温室内フラスコで管理・培養)

⇒夏季の猛暑の影響を受けない！

43日後

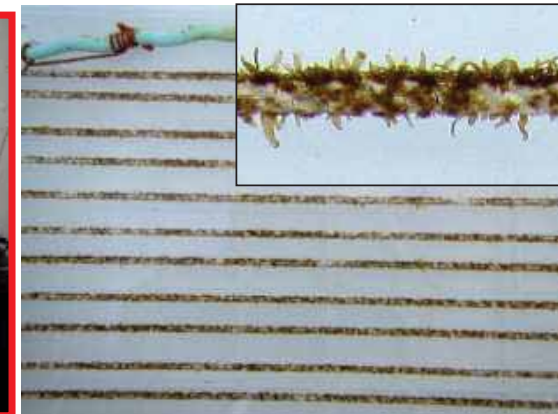


漁業者宅の旧冷蔵庫



水温：**エアコン**

光量, 日長：**LED照明, タイマー**



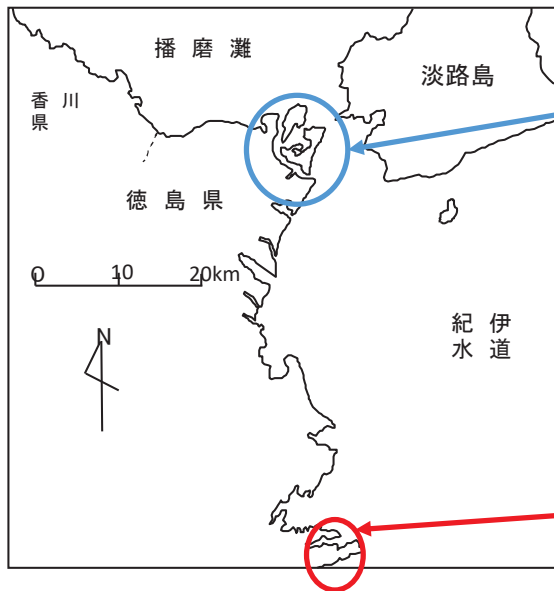
99.8%

(従来法では肉眼視
できない)

4-2. ワカメの新たな品種開発



- フリー配偶体を活用して交雑
- 椿町: 鳴門より+3~4℃の平均水温
- 在来種: NN株, 交雑種: NT株を比較



NN株



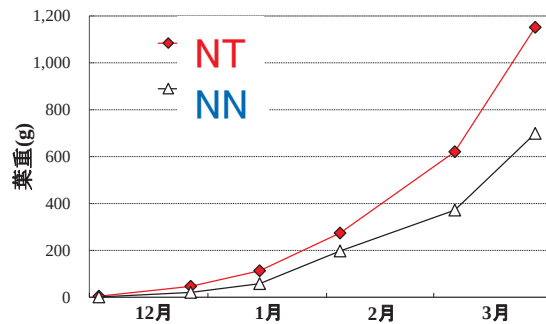
天然株



NT株

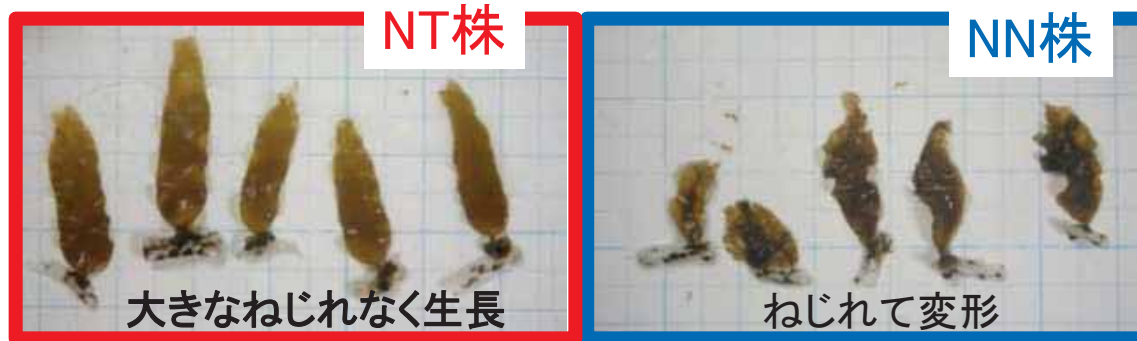
4-2. ワカメの新たな品種開発

平均葉重(可食部)の推移



交雑種:NT株は
生長が良い(葉重1.2~1.9倍)
品質も在来種同等

種苗期の生長特性 25°Cで培養(15日目)



23°C < 25°C
(育苗開始) (耐性あり)

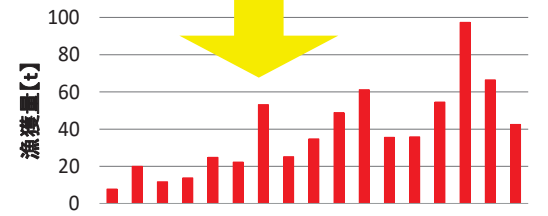
※実験実施:(国研)水産大学校
村瀬ら:水大校研報69巻4号(2021)印刷中

今後の気候変動への適応策

- 資源量が増加している魚介類の利用促進
(地域ブランド化)



いち早くブランド化！



- 新たな技術を付与して, 生産・品質の維持

